

坊主原パイロット茶園

坊主原パイロット茶園は、九州オルレ嬉野コース沿いにある茶畑で、絵のように美しい山を背景に茶畑を眺めることができます。嬉野コースで唯一、晴れた日には有明海を望むことができます。

坊主原という名前は、文字通り「禿げた野原」を意味し、茶畑になる前の土地の不毛の側面を反映しています。それまでは耕作には適さないとされていたこの土地は、何もない未開発のまま放置されていました。嬉野市は、この土地を購入して茶畑として整備することにしました。嬉野市では現在、試験的に茶畑を運営しており、その名の由来となっています。

課題 過去と現在

農園開発の初期段階で、市は予期せぬ課題に直面しました。近くの丘陵地に生息するイノシシが定期的に茶樹を根こそぎにしたり、畑を傷つけたりして、豊作の妨げになっていたのです。

現在の課題は、従業員の獲得と確保です。お茶の栽培に興味のある地域住民が不足しているため、市では一番茶の初収穫のための人手が不足しています。茶畑は定期的に手入れをしなければなりませんが、人手不足で生い茂ってしまう茶畑もあります。しかし、坊主原の一番茶は、すべての嬉野茶に期待される品質の高さを持っています。